

インターネット通信セキュリティと 情報モラルの認識改善案

～安心・安全・快適なインターネットライフを～

目 次

I .インターネット環境のある暮らし

II .情報セキュリティ・モラルに対する認識の欠如

III .セキュリティ対策

IV .情報モラルという新しい概念

V .家族みんなで身につける正しい知識

I. インターネット環境のある暮らし

インターネットの普及

- インターネット利用者数、人口普及率の双方が増加
※10人中8人以上が利用している状況

利用者数

2005年 8529万人



2015年 1億46万人

1517万人増加

人口普及率

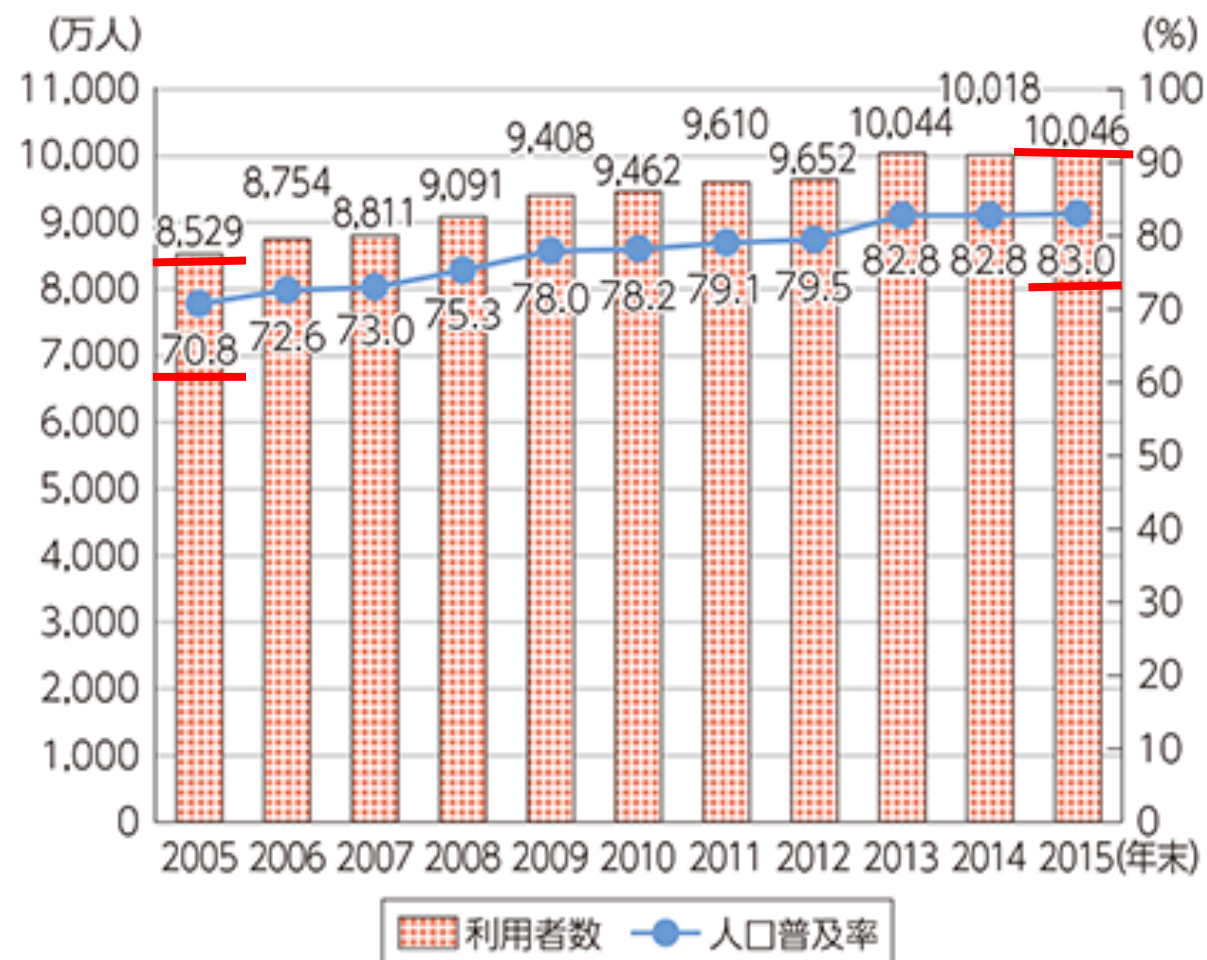
2005年 70.8%



2015年 83.0%

12.2%増加

(H28年度 総務省「通信利用動向調査」より抜粋)



スマートフォンの普及

●主な情報通信機器の普及状況

スマートフォンの保有数が急速に増えインターネットは身近になりました。

反面、パソコンの保有数は減少しています。

スマートフォン

2010年 9.7%



2015年 72.0%

保有率**7割以上**

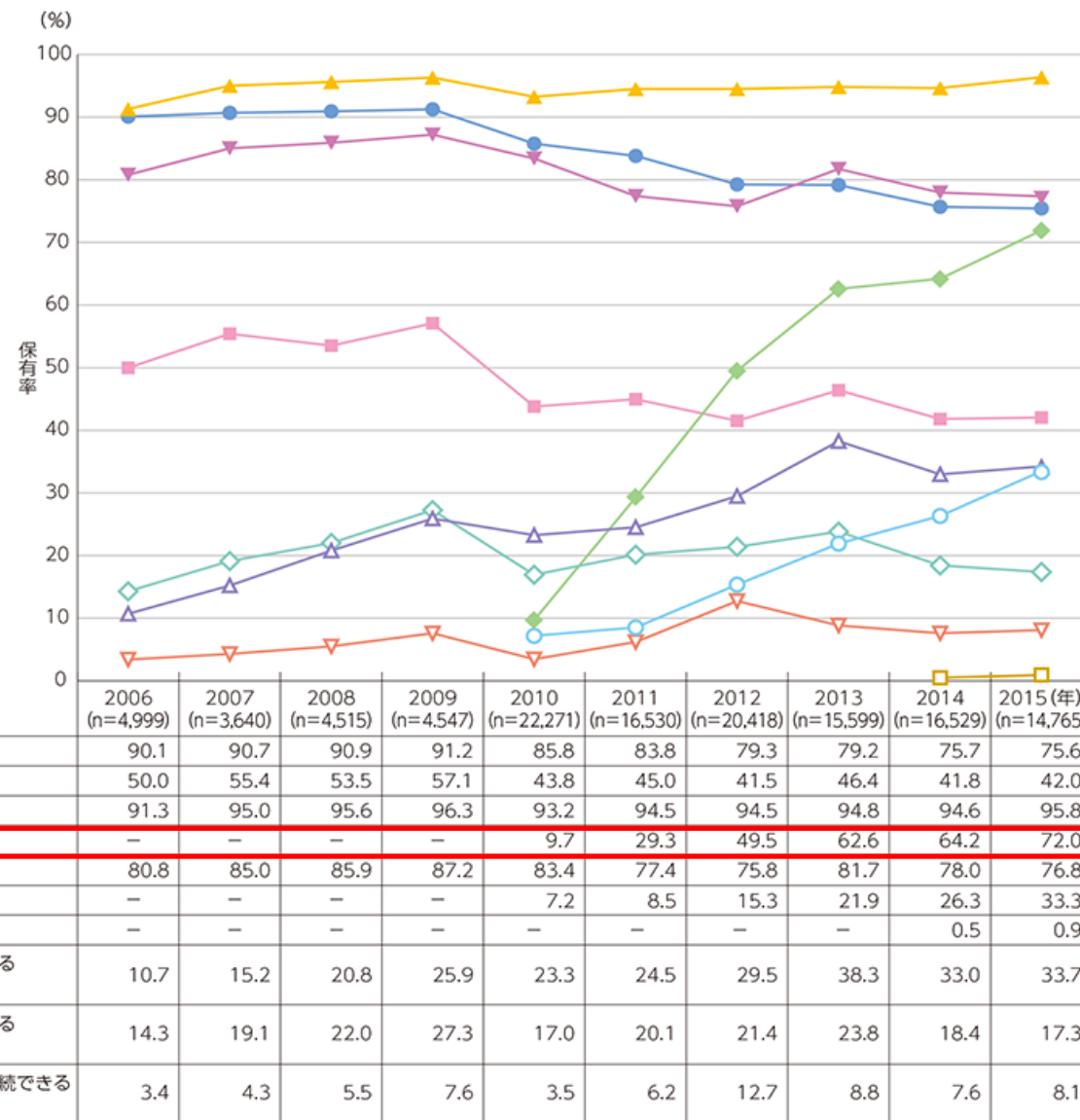
パソコン

2006年 80.8%



2015年 76.8%

10年間で**-4%**

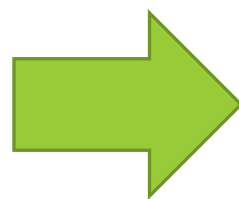


(H28年度 総務省「通信利用動向調査」より抜粋)

利用環境の増加

●インターネットが身近に

スマートフォンの普及で使いやすく便利になったインターネットは今では生活に欠かせないものとなりました。



Ⅱ.情報セキュリティ・モラルに対する認識の欠如

インターネットに潜む脅威

●情報セキュリティに対する知識と認識不足
インターネットの普及に合わせてネット犯罪も増え続けています。

相談件数

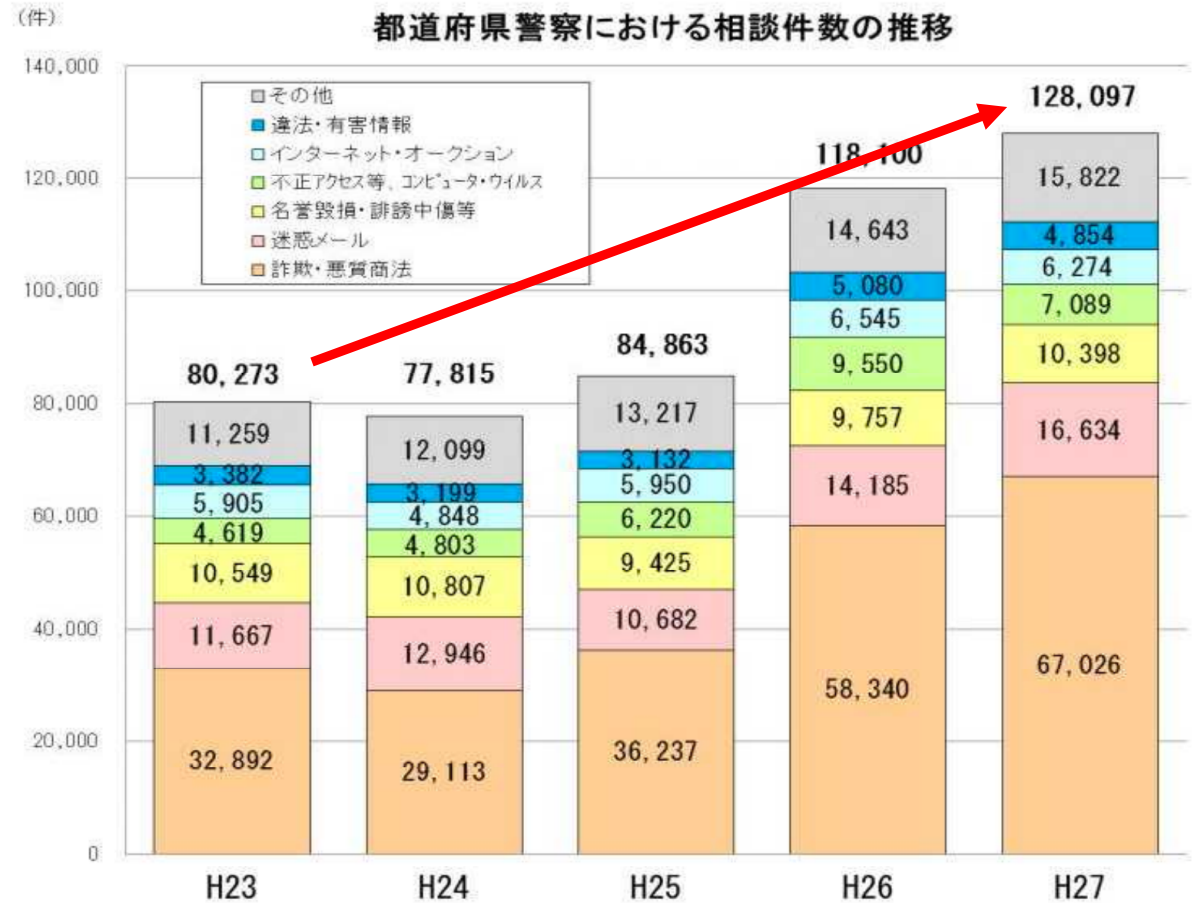
平成23年 80,273件



平成27年 128,097件

47,824件増加

情報セキュリティに関する知識不足と現実問題として捉えていないことが原因の一つです。



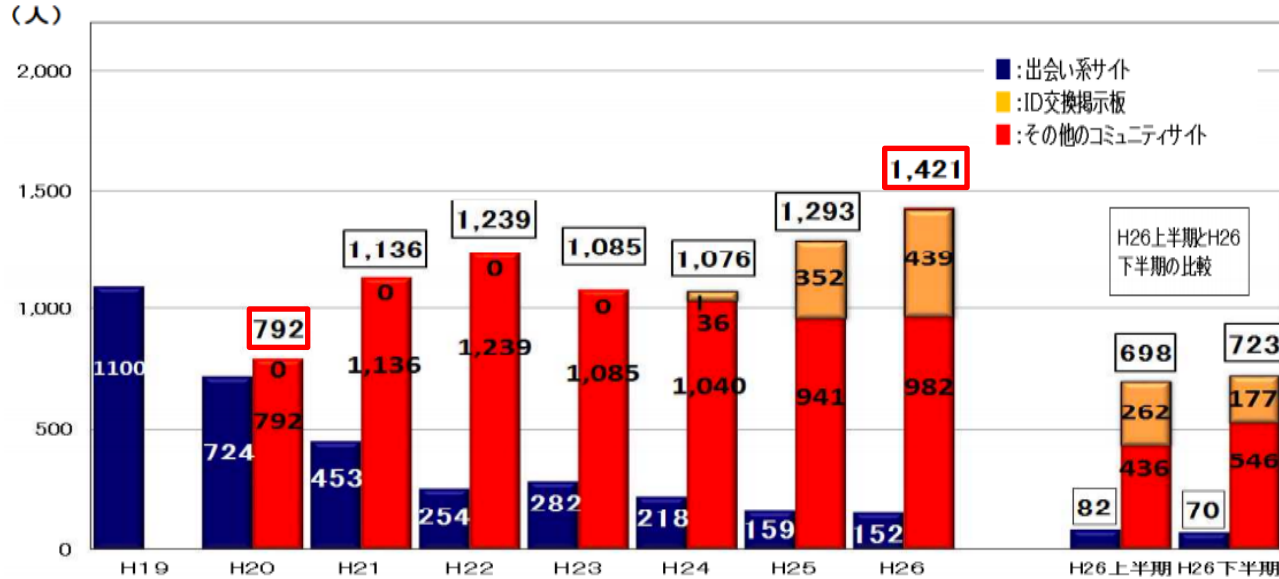
資料：警察庁「平成27年におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢について」

青少年への影響

●アダルトサイトや出会い目的のサイトの横行

最近の青少年向けのネットワークセキュリティに関してはアダルトサイトや出会い目的のサイトが多く取り上げられています。中でも、出会い目的のサイトは性犯罪につながる恐れが高いため特に注意が必要とされています。

【出会い系サイト及びコミュニティサイトに起因する事犯の被害児童数の推移】



※ コミュニティサイトの統計は平成20年から取り始めた。

コミュニティサイトに起因する事犯の被害児童数

平成20年 792人



平成26年 1,421人

6年間で約**2倍**

資料：警察庁「平成26年中の出会い系サイト及びコミュニティサイトに起因する事犯の現状と結果について」

情報モラルの重要性

●インターネットを介した他者との接触は実際の人と人とのふれあいとは全く異なるため、目に見えない空間でのやり取りは感覚を麻痺させてしまい他への気遣いが失われてしまいがちです。



SNSに家の窓からの風景写真を投稿
↓
写っていた建物と過去の投稿を元に身元を特定
↓
自宅を拡散されてしまい嫌がらせが相次いだ

好きなアイドルの歌を歌って動画サイトへ投稿
↓
「著作権は大丈夫？」とコメントに書いてあった
↓
調べてみて怖くなりそれから夜も眠れなくなった



Ⅲ.セキュリティ対策

セキュリティソフトだけでは守れない

●アクセス攻撃と詐欺メール

セキュリティソフトをインストールしただけではすべての脅威からは守れません。様々なウィルスや詐欺行為の知識を身につけ常に気をつけなければなりません。

例)

ワンクリック詐欺

チェーンメールやサイトの
広告などのURL



よくわからないURLへ
アクセスはしないように



なりすまし詐欺

メールでパスワードや
個人情報を聞き出し
騙し取る



決して入力せず
まずは確認の連絡を



IV.情報モラルという新しい概念

現代のコミュニケーション

●インターネット上のコミュニティの増加

SNSでのコミュニティ構築が一般化し、インターネット利用者の大半がSNSを利用しています。

SNS利用者数

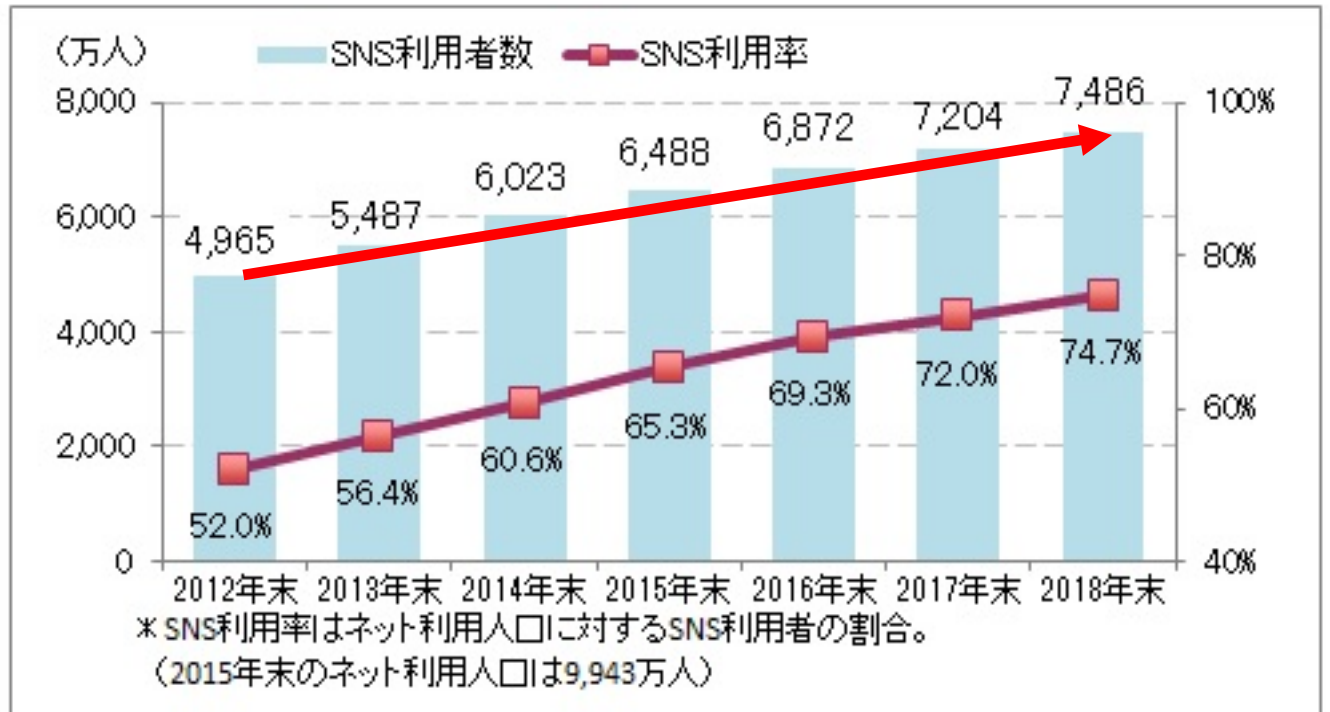
2012年末 4965万人 (52.0%)



2018年末 7486万人 (74.7%)

22.7%増加

■表1. 日本におけるSNS利用者数



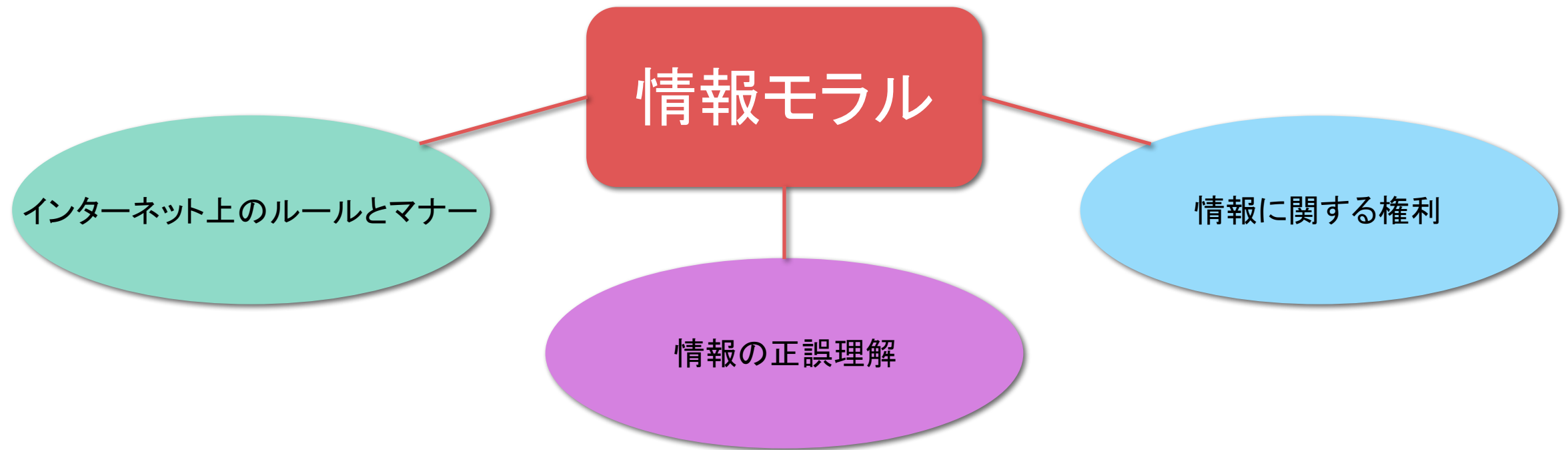
(2016年度 ICT総研調べ)

情報モラルへの理解

●三つの重要点

誰でも手軽に利用できるようになったインターネットは便利な反面、正しい知識と倫理を持って利用しなければ心身に多大な影響を及ぼします。

そのため情報モラルを構築する三つの重要点を中心に理解を深めていかなければなりません。

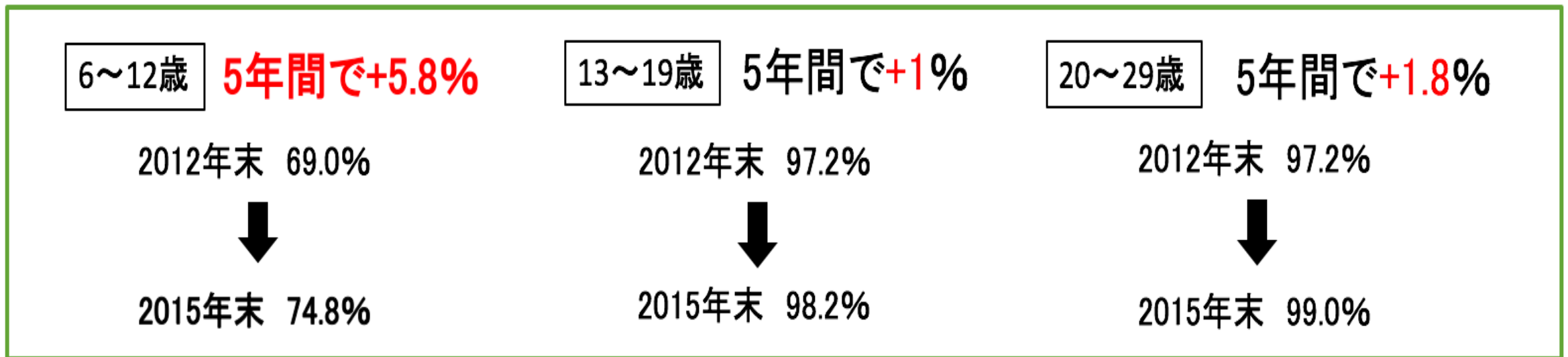


インターネット利用の低年齢化

●若年層の利用率の増加

インターネット普及率の増加に伴い、若年層の利用率も増加傾向にあります。今では幼児が一人でスマホを利用している姿も珍しくはありません。

これからはIoT(モノのインターネット)が普及していく時代となり、子供達は生まれてからすぐにインターネットと触れ合っていくのです。



(H26～H28年度 総務省「通信利用動向調査」より抜粋)

V. 家族みんなで身につける正しい知識

家庭でも学校でも学ぶインターネットライフ

●子供だけでなく大人も一緒に

隠したり触らせないのではなく、危険を理解した上で利用を学ぶことが重要です。

- ・用途の確認
- ・適切な利用方法
- ・情報の正誤確認
- ・不適切な情報

etc.....



- ・子供からの情報
- ・学校での流行
- ・SNSアプリ活用方法
- ・学校内の取り組み

etc.....



—— あとがき ——

インターネットを利用するにあたり、大人が常に目を光らせて子供を監視するのは限りがあります。

ましてや今の時代にインターネットを利用させないということはほぼ不可能です。

子供は大人の知らないところでコミュニティを作り、繋がり、新しいものを想像し生産していきます。

素晴らしいことですが、正しい知識とモラルを持っていなければ犯罪や事件へと巻き込まれてしまう恐れがあります。

そのためには、子供も大人も一緒に学んでいくことが必要です。

移り変わりの早いインターネット事情にみなさんどれだけ対応出来ているでしょうか？

お子さんに与える影響を予測し対処することが出来ているでしょうか？

みなさんは果たしてインターネットを未来に向けて活用できているのでしょうか？

共有し、見識を広く、国境を越えて繋がり合えるのがインターネットの良いところです。

大人も子供もお互いに共有し合いながら繋がり合いましょう。

インターネット通信セキュリティと情報モラルの認識改善案 ～安心・安全・快適なインターネットライフを～

記述者：インターネットライフアドバイザー 西 進太郎

H28年 2月